

生ごみの減量・再資源化に向けて

～有機物リサイクルと生ごみの分別収集～

市民説明会



令和6年10月～11月



上田市
環境部 ごみ減量企画室

目次

1 ごみの現状と課題

2 生ごみリサイクル推進プラン

3 有機物リサイクル施設計画

4 生ごみの「分別収集」

1-1 ごみの現状と課題

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

◆現在のごみ処理施設

○上田クリーンセンター
処理能力200トン/日 24時間
昭和61年4月稼働



38年経過

○東部クリーンセンター
処理能力30トン/日 8時間
平成5年9月稼働

31年経過



○丸子クリーンセンター
処理能力40トン/日 16時間
平成4年4月稼働

32年経過



いずれの施設も老朽化が進み、維持・修繕費用が年々増加しています。

1-2 ごみの現状と課題

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

◆資源循環型施設（統合クリーンセンター）の整備を計画

老朽化した
3つのクリーンセンターを廃止



統合クリーンセンター
(資源循環型施設)
144t/日

候補地：上田市常磐城2320ほか
(し尿処理施設「清浄園」用地)

**施設の周辺環境の負荷を低減する
ため、施設規模をよりコンパクトに
する必要があります。**



現在の3施設
合計270 t /日の
約半分の規模



1-3 ごみの現状と課題

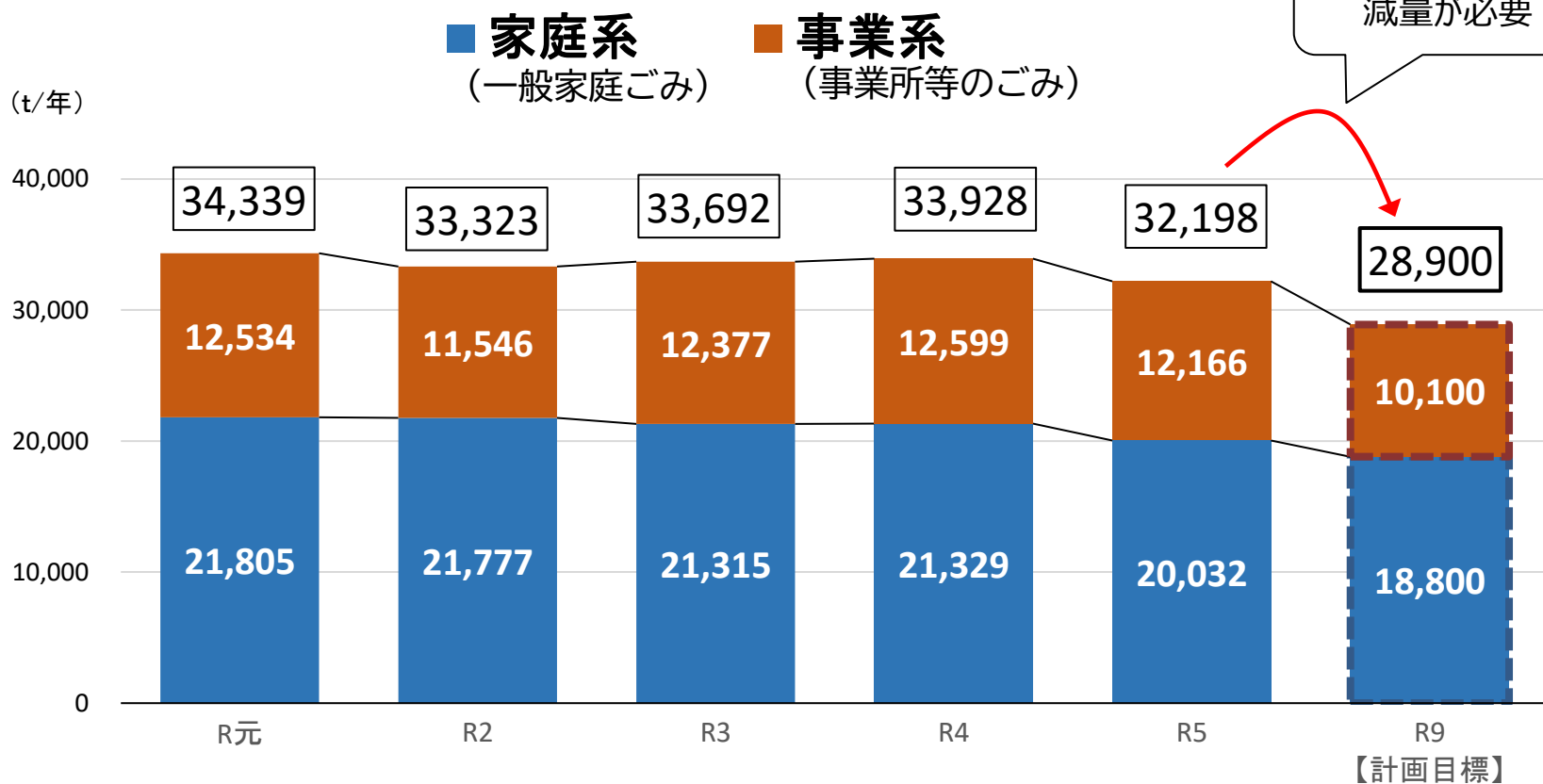
現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

◆上田市 可燃ごみ処理量の推移



目標達成までに 約3,300 t の減量が必要です

1-4 ごみの現状と課題

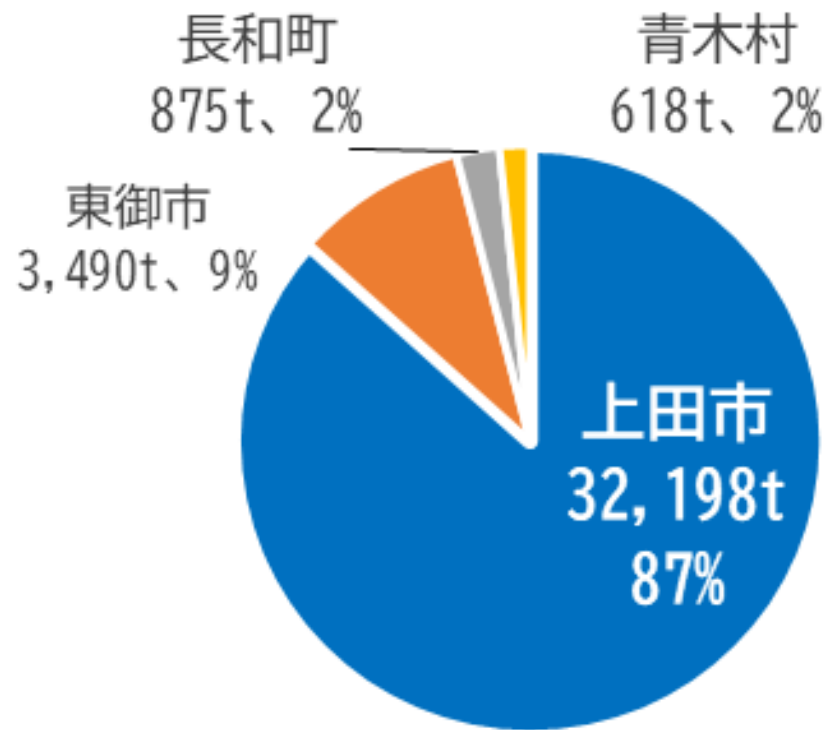
現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

令和5年度 市町村別可燃ごみ量



広域連合の構成市町村のうち
上田市は人口の多さからごみ排出量の8割超を占めています

東御市・長和町では生ごみ堆肥化施設を建設、分別収集し、生ごみ減量に取り組んでいます

1人一日当たりの可燃ごみ量

上田市	: 577 g / 人・日
東御市	: 326 g / 人・日
長和町	: 425 g / 人・日
青木村	: 411 g / 人・日

市全体で更なる減量施策に取り組む必要があります

1-5 ごみの現状と課題

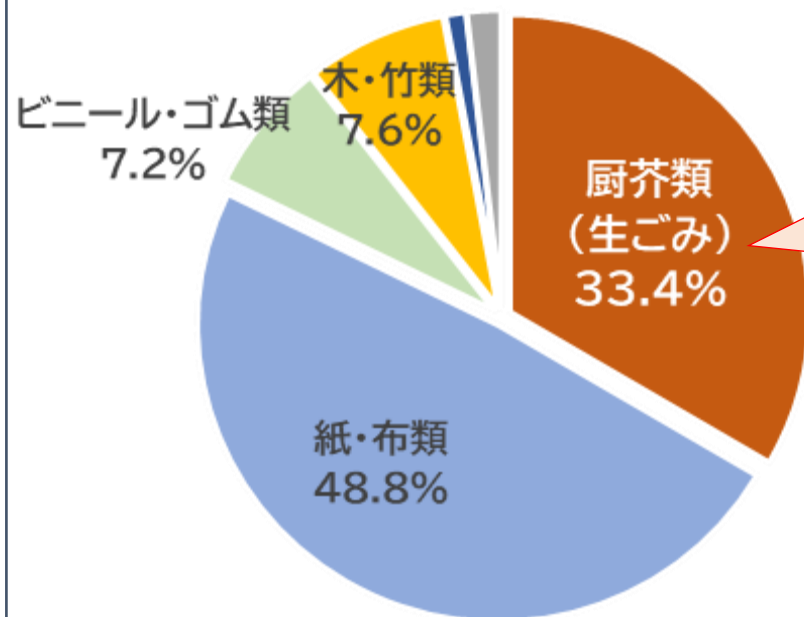
現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

上田クリーンセンターのごみ組成 (過去10年平均のごみの種類・割合)



可燃ごみに占める生ごみの割合は3～4割程度

焼却処理されている生ごみは約10,800 t / 年
(うち家庭系が約6,700 t) と推計

生ごみの減量施策によって、計画目標値の達成を目指します

生ごみの80%が水分です。臭いの原因となり、焼却炉で燃えにくくなるため、余計な焼却エネルギーを使うことになります。なるべく水気を切ってから捨てましょう。【環境省HPより】

1-6 ごみの現状と課題

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

可燃ごみ減量目標の整理

資源循環型施設(上田地域広域連合)



施設規模
144 t /日

現在の3施設
合計270 t /日の
約半分の規模

上田市での計画(ごみ処理基本計画)

R4

環境負荷の低減やごみ処理コストの抑制
などを図り、豊かな自然環境と共生したま
ちの実現を目指すための目標

R 5 可燃ごみ処理量
32,198 t /年

広域全体の約87%
が上田市のごみ

約10,800 t /年
が生ごみ

R 9 目標値
28,900 t /年

さらに約3,300tの
減量が必要

周辺の環境負荷低減、施設規模をよりコンパクトにする必要があります

1-7 ごみの現状と課題

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

上田市における「ごみの分別」

上田市のごみの排出方法及び出し方は合併後、旧4市町村単位のルールにより行われてきましたが、市民負担の公平化や効率的なごみの減量及び資源化を推進するため、**平成20年4月1日から市内全域で統一**しています。

分別区分		指定袋	排出場所	収 集
燃やせるごみ		青色	ごみ集積所	週2回
プラマーク付プラスチックごみ		緑色	ごみ集積所	週1回
燃やせないごみ		赤色	ごみ集積所	月2回
有害ごみ	水銀体温計	—	資源物回収所	月1回
	蛍光管			
	電池			
危険ごみ	スプレー缶	—	資源物回収所	月1回
	カセットボンベ			
	ライター			
粗大ごみ	燃やせるごみ	—	クリーンセンター	排出者自ら
	燃やせないごみ		民間処理業者	

分別区分			排出場所	収 集
資 源 物	新聞紙・チラシ		資源物回収所	月 1 回
	雑 誌			
	雑がみ			
	ダンボール			
	紙パック			
	布 類			
	缶 類		資源物回収所	
	びん類	無色透明	資源物回収所	
		茶 色		
その他の色				
ペットボトル		資源物回収所	店頭回収	

目次

1 ごみの現状と課題

2 生ごみリサイクル推進プラン

3 有機物リサイクル施設計画

4 生ごみの「分別収集」

【策定の背景】

- 生活の中で必ず発生するごみを、適正に自己処理することやリサイクルによってごみの処理量を減らすことは、**循環型社会の形成のために不可欠な取組**です。
- 資源循環型施設の規模をよりコンパクトなものとして、地域への環境負荷をできるだけ低減する必要があるため、可燃ごみに多く含まれる生ごみの焼却量を減らすことと共に、有効に循環利用できる持続的な仕組みづくりを目指します。

【位置づけ】

上田市ごみ処理基本計画

- ・生活環境の保全と公衆衛生の向上
- ・一般廃棄物(ごみ)の適正な処理

上田市ごみ減量アクションプラン

- ・基本理念の実現を目指す『じっこう』(実効・実行)計画【施策の展開】

<基本理念>

みんなが主役・減らそう「ごみ」・目指そう「資源の環」－自然環境共生のまちへ－



生ごみ減量施策の個別計画として策定

●生ごみリサイクルの「構成要素」

上田市の地域特性を活かして生ごみを「ごみから資源に、処理から利用にシフトさせ、まちの活性化にいかす一連の循環の仕組み」とするため、環境と経済を両立する持続可能な社会づくりの世界共通の目標となるSDGsの視点も加えた構成要素

① 発生を抑制する

- ◆ 賢い消費をする
- ◆ 調理にひと工夫する
- ◆ 「食品ロス」の背景まで考える

② 自己処理を優先する

- ◆ 全市域で生ごみの自己処理を優先
- ◆ 自己処理が困難な地域でも、分別収集などにより資源化を図る

③ 資源化して利用する

- ◆ 生ごみ由来の有機物を農地還元
- ◆ 安全でおいしい農産物の付加価値を高める
- ◆ 農業を起点にまちの活性化に役立てる

④ 自主的に取組む

- ◆ ごみの減量に取り組める人が、できることから取組む
- ◆ 市は、自主的な取組を促すための啓発や必要な支援を行い環境整備に努める

【生ごみの発生・排出抑制の推進】

- 最も基本的な取組は、**生ごみそのものを生まない**こと。
- それでも出た生ごみは、**なるべく自ら適正に処理**をして、ごみ集積所への排出を抑制し、**焼却施設での処理を少なく**すること。
- これら取組が継続するよう、**一人ひとりができることから一歩ずつ自主的に**行う。

1 家庭の取組

【発生・排出抑制】

- ◎ 計画的な買い物 賢く責任あるエシカルな消費
- ◎ 生ごみの3切り 食材の使い切り、料理の食べ切り、それでも発生する生ごみの水切り
- ◎ 食品ロスの削減 エコクッキングの実践など
- ◎ 自己処理の取組 ごみ減量化機器や「ぱっくん」活用 ・ 堆肥は庭や畑で利用

2 事業所の取組

【発生・排出抑制】

- ◎ 食品ロスの削減 食品ロスを生まない適切な発注・販売・在庫管理・調理の工夫
- ◎ 再生利用の推進 食品関連事業者を中心に食品循環資源を再生利用する

3 行政の取組

【意識の高揚と環境整備】

- ◎ 地域一体の取組 「もったいない」を合言葉に、ごみ問題に関心を持つ市民を一人でも増やし、理解と協力の環を拡げる
- ◎ 連携による推進 生ごみを堆肥化して地域内で利用する事業の実施を推進

家庭系生ごみの資源化

～全市域での取組～

(1) 自己処理

全市域において、可燃ごみの更なる減量に向けた、生ごみの発生・排出を抑制する「自己処理」の取組を推進します。

自己処理に向けた生ごみの減量・再資源化の施策

① ごみ減量化機器購入費補助制度

生ごみ堆肥化容器及び生ごみ処理機を購入した場合に購入費に対して補助金を交付

② 生ごみ堆肥化基材「ぱっくん」

生ごみをダンボールコンポストで堆肥化（無料配布）

③ やさいまる(生ごみリサイクル野菜循環ポイント事業)

生ごみ処理機で処理した乾燥生ごみ等を市内の J A 直売所等買い物ができるポイントと交換

④ 生ごみ出しません袋

「生ごみを可燃ごみとして排出しないこと」、「生ごみ以外の減量化・再資源化にも取り組むこと」を宣言した世帯に無料配布（1世帯30枚で年1回のみ）



※制度は見直し等により変更する場合があります。

家庭系生ごみの資源化

～「自己処理が困難な地域※」での取組～

（※畑など(農地)が少なく自己処理が難しい市街地など）

(2)分別収集・収集範囲

- ・自己処理が困難な地域では、生ごみの「分別収集」により資源化します。
- ・収集範囲は、住民の理解を得ながらスモールスタートし段階的に広げていきます。
- ・上田中央地域から取組み、都市計画における用途地域内を範囲としています。

(3)収集量・排出方法・収集方法

- ・年間約650t～1,200tを見込みます。
- ・生ごみ専用の指定袋を使用します。
- ・専用の車両により、週2回の収集とします。

(4)資源化の方法

- ・資源化には、飼料化、堆肥化、バイオガス化などがありますが、時間軸や容易性、施設整備や資源化による生成物の利用先など総合的な評価から、堆肥化による資源化が望ましいとしました。

家庭系生ごみの資源化

～堆肥利用に向けた市の取組～

(5)資源としてまちの活性化につなげる

●堆肥の利用

良質な堆肥を生産し、農業利用を進めます。
○使いたくなる堆肥を作り、需要を拡げます。
○地域内での循環の推進を図ります

●理解から
実践を促す

市は、生ごみの資源利用について、必要な環境を整備します。
堆肥の活用を図り、安全・安心でおいしい農産物づくりを支援します。
資源の循環からなる食材の提供など、食育を通じて環境教育に取り組
みます。

**有機物リサイクル施設(生ごみ堆肥化施設)の必要性**

目次

1 ごみの現状と課題

2 生ごみリサイクル推進プラン

3 有機物リサイクル施設計画

4 生ごみの「分別収集」

3-1 施設計画

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

事業の目的

ごみの問題は市民全員の共通の問題です。
資源循環型施設（統合クリーンセンター）建設候補地周辺地域への負担を最小限に抑えた安心・安全な施設とするため、市民全員がごみの減量に取り組むことが大変重要です。

何のために？ 誰のために？



資源循環型施設を利用する**市民全員が、自分事として生ごみのリサイクルに取り組む**、可燃ごみを減らすことにより、周辺地域の環境負荷低減につなげます。



有機物リサイクル施設の計画は、資源循環型施設を利用する市民全員のために必要な事業です。

3-2 施設計画

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

事業の目的

新たな焼却施設をコンパクトに

- 老朽化した現焼却施設の状況から、新施設の整備が急務
- 環境負荷低減のため、施設規模をコンパクトに
- 市全体でごみの減量に取り組むことが求められる

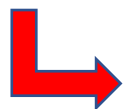
生ごみを資源化(堆肥化)して有効利用

- 良質な有機堆肥を農地へ還元し、有効利用
- ごみから資源に、処理から利用にシフト
「生ごみのリサイクルシステム」の実現

ゼロカーボンシティを目指す

- R3. 2「上田市気候非常事態宣言」を発出
- 燃やせるごみの減量により、CO2の削減

【ごみを減らす新たな取組 5R】



持続可能な社会の構築

3-4 施設計画

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

他市町村の施設



計画する施設は、収集した生ごみを、畜産農家の牛ふんと発酵させて、良質な堆肥の生産を目指す「生ごみ堆肥化施設」です。

3-5 施設計画

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

基本方針

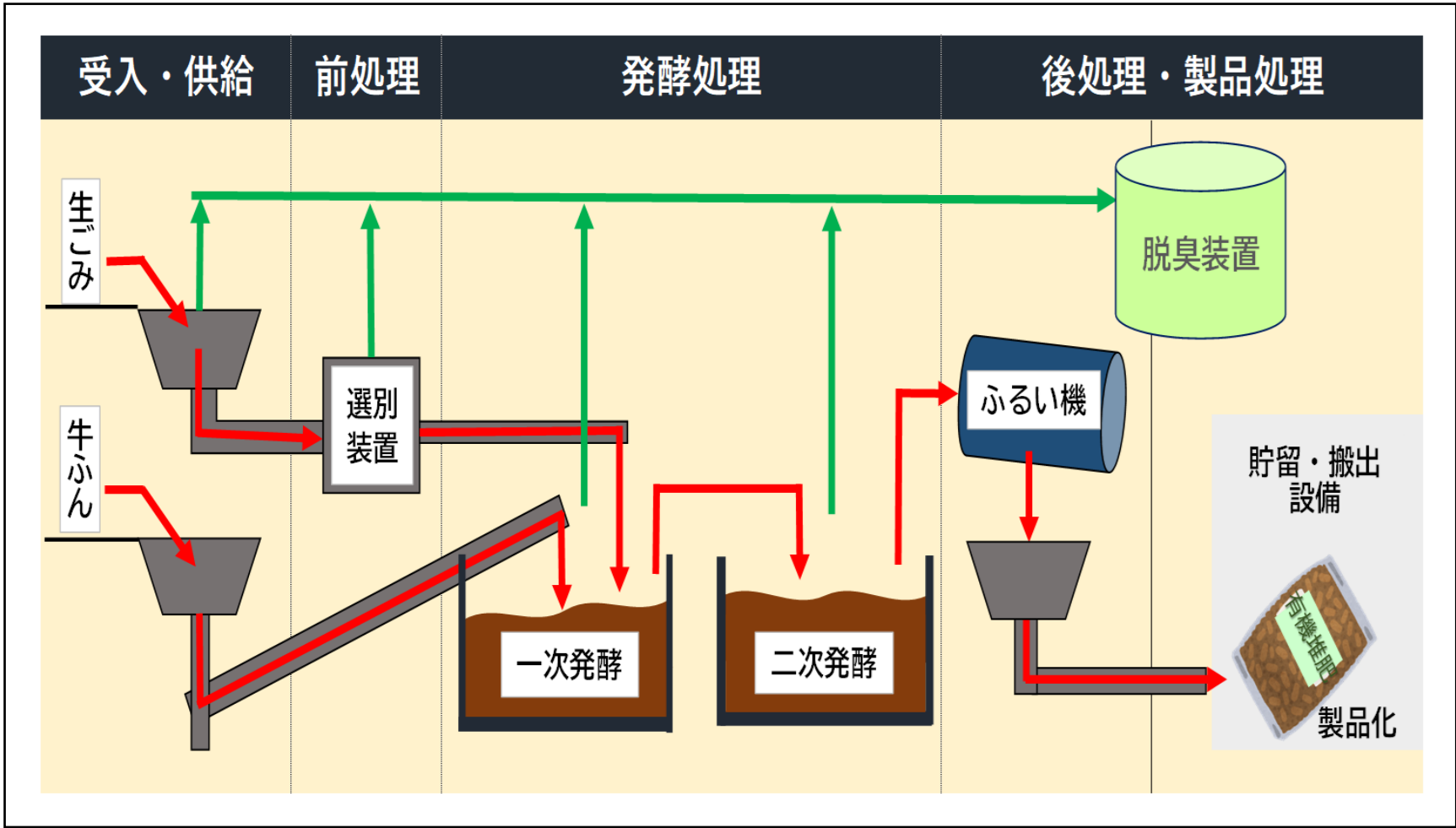
- ① 安全・安心で安定的な処理が確保される施設
- ② 周辺環境に配慮し、地域に貢献する施設
- ③ 地域資源を活用し、持続可能な食料システム構築に資する施設
- ④ 効率性と経済性を考慮した施設

施設整備計画

項 目	計 画	備 考
処理方法	堆肥化处理	好気性発酵による堆肥化
施設規模	5.2トン/日	
生ごみ収集量	1,068トン/年	生ごみ分別収集範囲(72自治会) 上田地域:畑等が少ない中心市街地等 丸子地域:建設予定地周辺(塩川・長瀬)地域
牛ふん搬入量	572トン/年	隣接の畜産農家から搬入
堆肥生産量	300トン/年	(想定)

3-6 施設計画

処理工程イメージ



目次

- 1 ごみの現状と課題
- 2 生ごみリサイクル推進プラン
- 3 有機物リサイクル施設計画
- 4 生ごみの「分別収集」

4-1 生ごみの分別収集

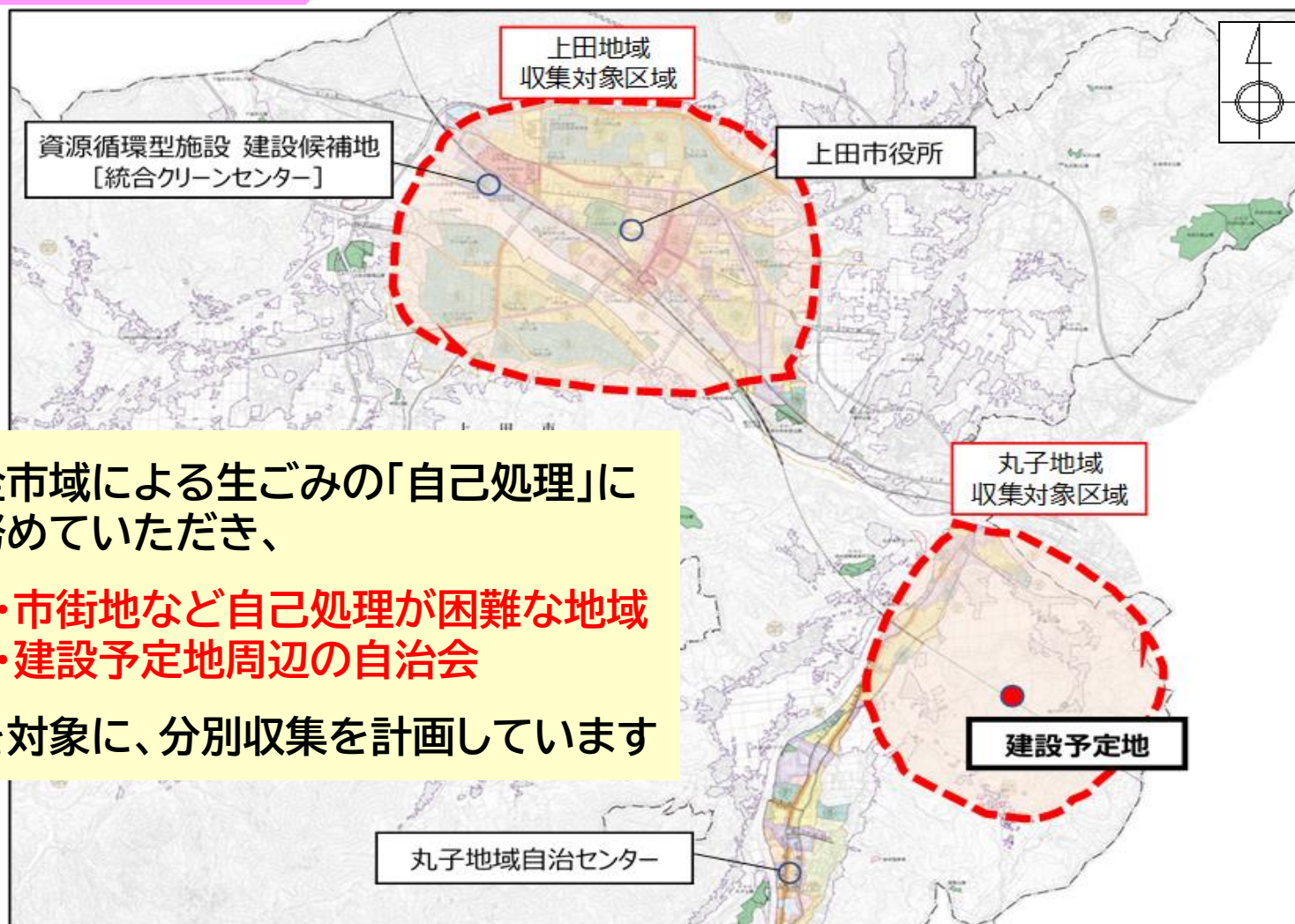
現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

分別収集の範囲



全市域による生ごみの「自己処理」に
努めていただき、

- ・市街地など自己処理が困難な地域
- ・建設予定地周辺の自治会

を対象に、分別収集を計画しています

4-2 生ごみの分別収集

収集対象自治会（案）

地区名	自治会名	地区名	自治会名	地区名	自治会名
東部	踏 入	北部	柳 町	塩尻	秋 和
	泉 町		上 紺 屋 町	川辺	川 辺 町
	上 常 田		鍛 冶 町	泉田	倉 升
	中 常 田		上 鍛 冶 町	神川	上 沢
	下 常 田		上川原柳町		国 分
	北 常 田		下川原柳町		下 堀
	常 入	西部	愛 宕 町	城下	上 堀
南部	材 木 町		上 房 山		諏 訪 形
	大 手 町		下 房 山		三 好 町
	北 天 神 町		新 田		御 所
	南 天 神 町		蛇 沢		中 之 条
	泉 平		下 紺 屋 町		千 曲 町
	天 神 の 杜		緑 が 丘	長瀬	中 村
	鷹 匠 町		鎌 原		朝 日 ヶ 丘
	本 町		新 屋		上 長 瀬
中央	松 尾 町		緑 が 丘 北	塩川	長 瀬 中 央
	末 広 町		緑 が 丘 西		下 長 瀬
	横 町		城 北		石 井
	海 野 町		西 脇		坂 井
	丸 堀 町		新 町		狐 塚
	原 町		諏 訪 部		郷 仕 川 原
	馬 場 町		生 塚		南 方
	袋 町		常 磐 町		藤 原 田
	木 町				
	北 大 手 町				
	田 町				

上田地域：63自治会

生ごみの自己処理が困難な「用途地域」及び「人口集中地区」が自治会の居住地域の概ね8割以上を占める自治会

丸子地域：9自治会

建設予定地周辺の「長瀬」・「塩川」全自治会

合計：72自治会

対象となる人口は、57,275人(R5.10.1現在)で市全体の約37.5%

4-3 生ごみの分別収集

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

出し方などの考え方

生ごみは
どうやって出すの？



「燃やせるごみ」のうち、「生ごみ」を分別して、専用のプラスチック袋で、ごみ集積所へ出していただきます。

いつ出せるの？



燃やせるごみと同じ日（同一曜日）で、週2回出せます。

何を「生ごみ」として
出せるの？



人の口に入るもの(食べられるもの)や野菜などの調理くず、食べ残し等(貝殻や魚の骨などの分解しづらいものも含む)です。

最終的には、施設を運営する事業者と協議し決定しますが、分別の手間がかからないようにする予定です。

分別して、なにか
メリットはあるの？



分別は手間にはなりますが、地球環境にやさしい取組みとして御理解いただき、御協力をお願いします。

4-4 生ごみの分別収集

現状と
課題

推進
プラン

施設
計画

分別
収集

出し方などの考え方

ごみ減量化機器を
使ってるけど、
引き続き使えるの？



全市域での「生ごみの自己処理」を推奨することから、電気式生ごみ処理機や堆肥化容器は、分別収集開始後も引き続き使用できます。

分別対象の自治会では
ないのですが？



市の「生ごみの減量・再資源化の施策」などを活用し、「自己処理」の取組をお願いします。

分別対象自治会は、
今後、全地区へ拡大
していくのですか？



事業を進めていくうえで、生ごみの排出状況や財政状況を見極めながら、検証していく必要があります。

袋の価格・大きさ等は、皆様の御意見などを伺い検討して、今後、説明会等で御説明してまいります。

御清聴ありがとうございました

皆様の御理解、御協力を よろしくお願いいたします。

上田市 環境部 ごみ減量企画室

〒386-0025 上田市天神3-11-31（上田クリーンセンター内）

TEL : 0268-22-0666 FAX : 0268-26-0815

E-mail : genryo@city.ueda.nagano.jp